

CSR Outline 2021

Corporate Social Responsibility Report



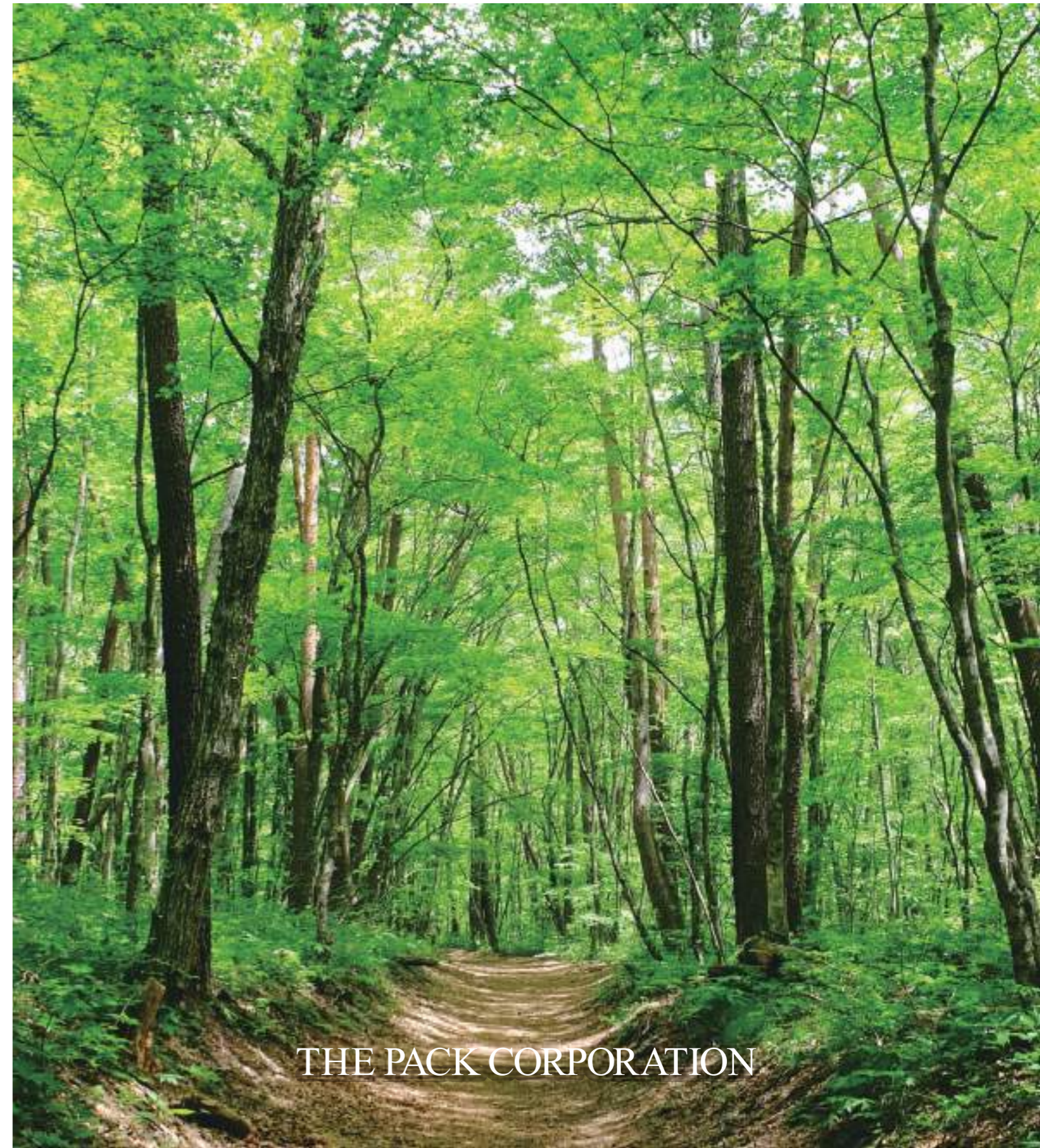
ザ・パックフォレストマーク
ザ・パックの環境基金と
森林保全・植林活動のマークです。

 **ザ・パック株式会社**

<https://www.thepack.co.jp>



印刷：西日本印刷工業株式会社 2105



THE PACK CORPORATION

CONTENTS

トップ・メッセージ	P.2
企業理念体系とSDGsのかかわり	P.3～4

01 環境への取組み P.5～8
事業活動に伴う環境負荷を削減することは、すべての企業にとって重要な課題です。CO₂排出量や廃棄物の削減など、さまざまな取組みを推進しています。

02 ザ・バックフォレスト環境基金活動 P.9
原材料の多くを紙が占める当社にとって、森林を守りながら資源を活用することが不可欠です。CSV活動の一環として、環境対応商品の販売額の一部を拠出し、森林保全活動を行っています。

03 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策 P.9
従業員の安全に配慮しつつ、事業活動を継続する為、各種取組みを行っています。

04 新しい生活様式下において注目を集める製品 P.10
時代のニーズに合わせた商品の研究開発を進めています。コロナ禍において需要が増えた通販・食品テイクアウトパッケージを紹介します。

以下の項目は「CSR REPORT 2018」をご覧ください。

品質管理 コーポレート・ガバナンス / コンプライアンス 人材育成と職場づくり

編集方針

ザ・バックでは、CSR活動や報告のあり方(報告内容、データ・資料の収集方法等)について、3年に1度見直しをしています。本年はレポート発行の年にあたりますが、2022年に大幅なリニューアルを予定していることからアウトライン版を発行いたします。本「CSR Outline 2021」では、重点的に取り組んでいる「環境への取組み」を中心に記述しています。

その他のCSR取組み(品質管理・コーポレート・ガバナンス/コンプライアンス・人材育成と職場づくり等)については、「CSR REPORT 2018」でご覧いただけます。本レポートの発行目的は、株主・お客様・社員をはじめとするステークホルダーの皆様へ情報を開示し、ご意見をいただくことで、より深いCSR活動の推進に繋げていくことです。編集にあたっての主なポイントは、下記の3点です。

- ザ・バックによる環境的影響の中で、特にステークホルダーの皆様からの評価や判断に影響を及ぼす重要な事象・データを優先的に報告しています。
- 経営者のトップ・メッセージを通じて、ザ・バックが目指す企業像やCSRについてご紹介しています。
- 社員教育ツールとしても役立つように編集しています。

【報告の対象期間】 2020年度(2020年1月1日～2020年12月31日)
【報告の対象組織】 ザ・バック株式会社の本社、営業所、工場

トップ・メッセージ

Top message

1952年に衣装箱を製造する会社として設立した当社は、来年70周年を迎えます。現在はオリジナルの紙袋、紙器、プラスチック製品、段ボールを製造販売する総合パッケージメーカーへと成長いたしました。近年は『トータルパッケージのソリューション企業』を掲げ、従来からおこなっているソリューション提案、例えばデザイン、形式などの仕様変更による販売促進やコストの提案に加え、環境対応、業務効率化、省人化、SDGs推進など、お客様が抱える多種多様な課題についてもパッケージを通して複合的に解決する事に努めています。

外部環境では、新型コロナウイルス感染拡大により国民生活、企業活動は大きな変化の波が到来しています。当社内においては従業員の安全を最優先に考え、テレワークやオンライン会議システムの導入・推進、時差出勤等の仕組み整備を進め、お取引先様へはコロナ禍により生まれた新しい需要として、新しい生活様式に最適なパッケージの開発・提案などを積極的に行ってまいりました。

業績においては、緊急事態宣言による休業や移動自粛要請、その後も時短営業などにより、主力である百貨店・小売店の持ち帰り用紙袋やポリ袋などの販売が低迷した一方で、リアル店舗以外で商品を購入する傾向が継続・増加し、段ボールなどのEC用パッケージの販売が好調に推移しました。

また、パッケージに対する自然環境意識が高まる中、テレワークや外出自粛の巣ごもり需要として増加しているテイクアウト用パッケージやデリバリー用パッケージにおいて、紙化や減プラのニーズに応えるべく紙製パッケージの商品開発を進めています。加えて、2020年7月からプラスチック製買物袋有料化制度がスタートした事により、ポリ袋から紙袋への代替、ポリ袋の環境対応素材(バイオマス等)への切替えを提案し、環境負荷の削減を促進しています。

このように環境が急激に変化している状況下ではありますが、『人を大切にし、人を育てる』『どのような社会の変化にも対応する』経営理念のもと、今後も変化するニーズに応えながら、業績向上と社会貢献を両立してまいります。

昨年に2020年～2022年を対象期間とした中期経営計画を策定し、その中にはSDGsへの取り組み目標も組み込みました。以下が2020年末の進捗状況です。引き続き、目標達成に向けて社員一丸となって取り組んでまいります。

■2020年～2022年スローガン

『環境対応を見据えた経営』

「環境対応」とは自然環境のみならず、社会環境、職場環境など幅広い分野に対応する事を意味しております。

■SDGsへの取り組み

1 フォレスト製品販売強化

販売額の一部をフォレスト環境基金として拠出し、お客様と一緒に地球環境保護活動に取り組む

〈フォレスト製品売上高〉

2019年 15億円 → 2020年実績 13億円

2 Forest Stewardship Council® (森林管理協議会) 認証製品の販売強化

森林保全に貢献していく

〈FSC®認証製品売上高〉

2019年 29億円 → 2020年実績 48億円

3 CO₂削減への取り組み

今後予定している本社工場、大阪工場建替時に、再生可能エネルギーへの転換を図る

4 女性活躍推進のための行動計画

正社員に占める女性の割合を25%以上にする

2019年 267名 → 2020年実績 264名
21.0% → 21.2%

管理職(課長以上)に占める女性の割合を10%以上にする

2019年 16名 → 2020年実績 22名
5.7% → 7.6%

今後も事業を通じて社会に貢献してまいります。

ザ・バック株式会社
代表取締役社長

稲田 光男

企業理念体系とSDGsのかかわり

Corporate philosophy system chart & SDGs(持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals)

当社では、社是、経営理念をもとに様々な企業活動を行っています。これらの取り組みを国連が提唱しているSDGs(持続可能な開発目標)の観点から整理しました。



企業理念体系	ザ・バックでの取り組み	SDGsの持続可能な開発目標との関連 (○は関連する項目)																
		3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
コーポレート・ガバナンス (コンプライアンス) に関わる項目	「健康経営宣言」を発表し、定期的に健康診断とストレスチェックを実施している	○																
	持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等に関する研修を実施している		○	○					○									
	育児・介護支援を実施している			○				○										
	女性活躍推進のための行動計画を策定している			○				○										
	障がい者の雇用など、障がい者が社会へ参加する支援を行っている							○		○								
	安全・安心な労働環境を促進するために、研修や設備、マニュアルなどの整備を行っている							○										
	人が育つ職場づくり、安心して働ける給与や処遇、60歳定年後も見据えた制度設計を実施している																	
	年齢、性別、障がい、人種、宗教等によって、差別をしていない			○						○								
	ハラスメント行為があった場合、報告を受け、原因を追求し、再発防止策を施している			○						○								○
	内部統制、内部監査を通じて賄賂の要求や支払がないか、監視している																	○
仕入先に対し「反社会勢力の排除に関する誓約書」の提出を要求している																	○	
主力商品 ・紙袋 ・印刷紙器 ・段ボール ・フィルムパッケージ	プラスチックラミネートに代わる表面加工技術を活用している										○		○	○				
	食品用プラスチック包材に代わる機能性を付与した紙製包材を取り扱っている										○		○	○				
	プラスチックに代わる紙製緩衝材を取り扱っている										○		○	○				
	リサイクル可能な段ボール製収納什器を取り扱っている										○		○	○				
企画・提案 物流・生産	原材料使用量の少ない製品の提案をしている										○							
	包装資材を使用する環境でのエネルギー効率の良い仕組みの提供をしている										○							
	製品の生産において、紙・インク、その他の資源の消費を削減している										○	○						
	水の利用量を生産量に対応して削減している				○						○		○					
環境・品質 マネジメントシステム	有害な化学物質の利用を削減している				○						○							
	有害な化学物質を含む廃液を適切に回収・処理している				○						○							
	製品の生産以外での事業活動において、紙その他の資源の消費を削減している										○			○				
	CO ₂ 排出量(原単位)の削減をしている										○							
	太陽光発電のようにCO ₂ 排出の小さい再生可能エネルギーへの転換を進めている					○						○						
環境対応商品の開発・提供	東京・大阪工場の対象製造ラインでは、FSSC22000認証を取得しており、食品安全マネジメントシステムに沿った製造をしている										○							
	FSC® 認証製品等の持続可能な原材料を調達している										○					○		
	アフターユースのできる製品の開発をしている										○							
ザ・バックフォレスト環境基金活動	環境負荷の低い素材の開発と提供をしている										○					○		
	CO ₂ を年間132t削減している											○						
	森林、山地生態系の保全や回復、劣化した土地・土壌の回復に取り組んでいる				○							○	○	○				
社員のボランティア活動 (社会貢献活動)	生物多様性に配慮した樹種を植樹している													○				
	文化遺産や自然遺産の保全に取り組んでいる														○			
人材育成	「モノづくり教育支援事業」で小学生に体験教室を開催している		○												○			
	事業所の周辺清掃を行い、地域の廃棄物を回収・処理し、快適な環境を保っている															○		

01 環境への取組み

Environmental activities



当社は、全社で環境への取組みを推進しています。国内の全工場・事業所で2006年にISO14001の認証を取得し、CO₂排出量や廃棄物の削減、環境対応商品の開発など、さまざまな取組みを行っています。環境省の低炭素社会実現に向けた気候変動キャンペーン「Fun to Share」にも参加しています。

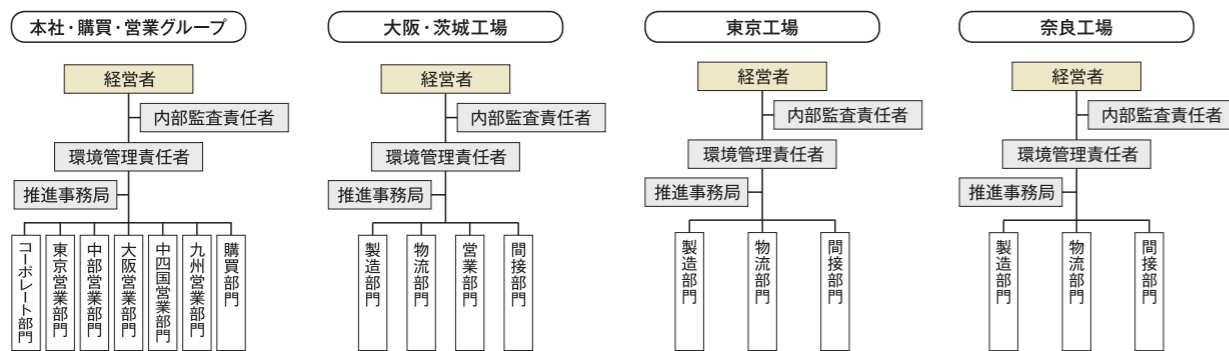
環境理念

私たちは 人と自然を愛し
夢のある未来をみつめ
かけがえのない地球を大切に
広く社会に貢献します

環境基本方針

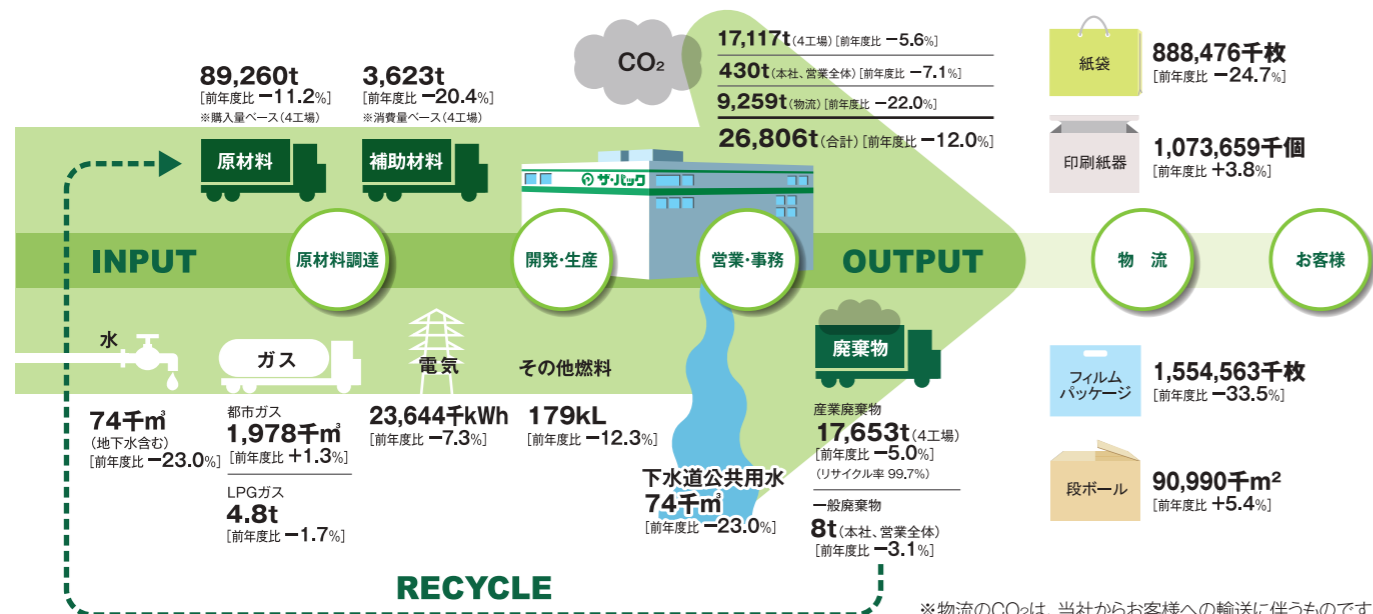
1. 安全と環境に配慮した商品開発と技術開発を推進します。
2. 資源、エネルギーを大切に、廃棄物の最小化とその再生利用に努めます。
3. 環境活動を通じて、顧客満足を目指してまいります。
4. 社会、地域における環境保護運動に積極的に参画します。

環境マネジメント組織体制



環境負荷の全体像

生産活動全体における環境負荷を把握し、負荷の低減に向けて取組んでいます。
※4工場(大阪工場、奈良工場、東京工場、茨城工場)及び本社・営業グループのデータを記載しています。



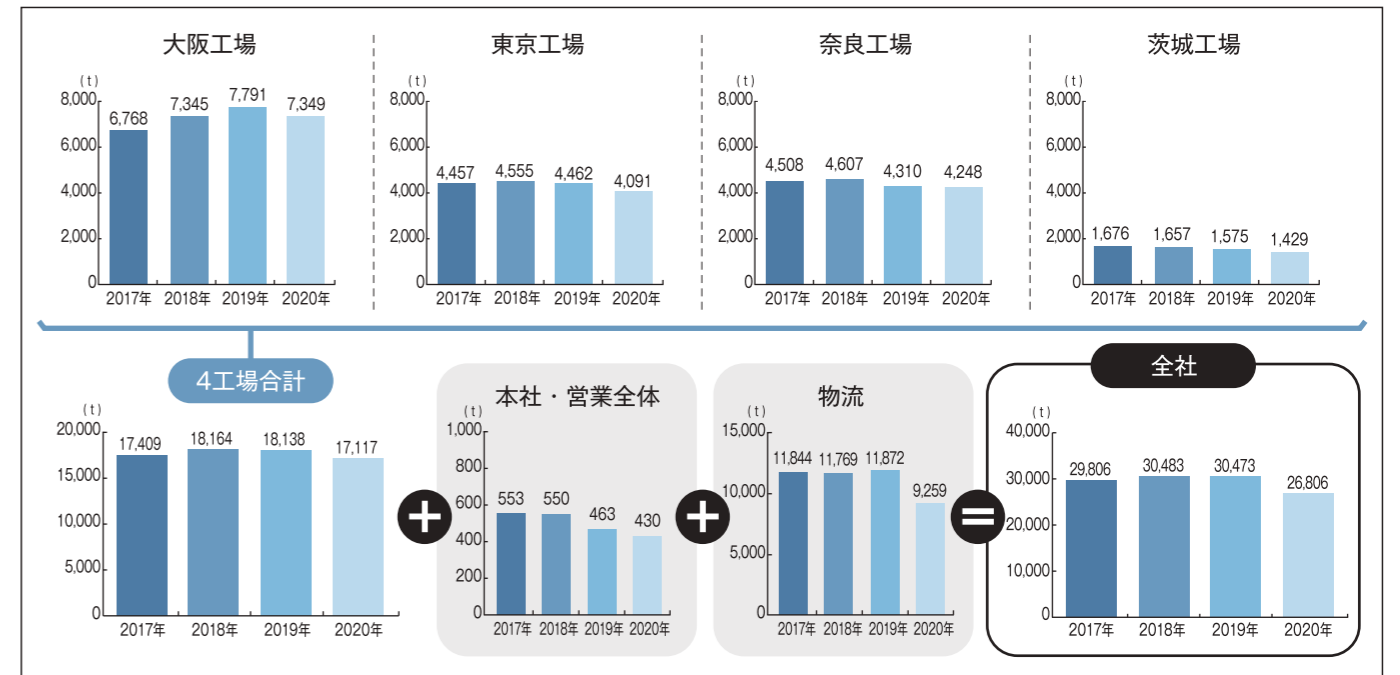
※物流のCO₂は、当社からお客様への輸送に伴うものです。

量的変化

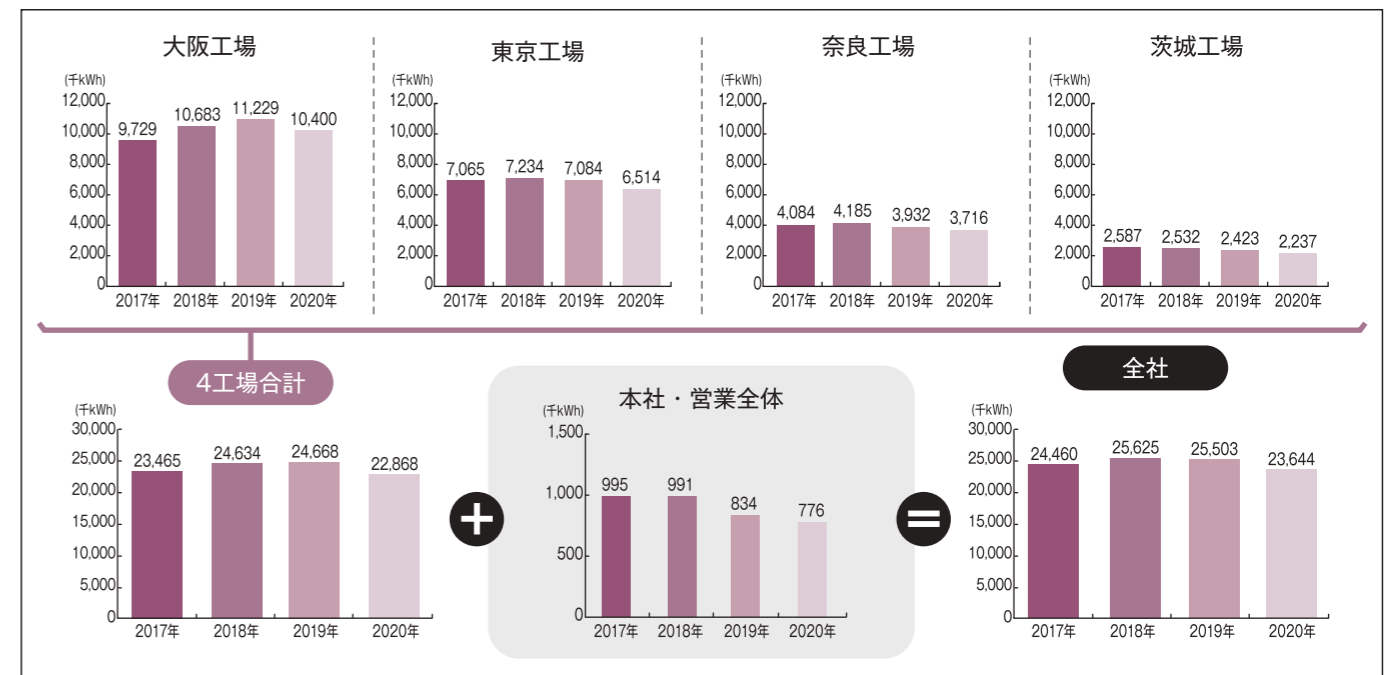
本社・営業グループおよび4工場では、省エネ活動や高効率機器の導入などによるCO₂の削減に取り組んでいます。また、産業廃棄物の削減や、リサイクル率の向上にも取り組んでいます。

2020年度はCO₂排出量減少、CO₂排出原単位は低下しました。産業廃棄物の排出量は減少し、リサイクル率は99.6%でした。今後も廃棄物の削減を進めていきます。

CO₂排出量



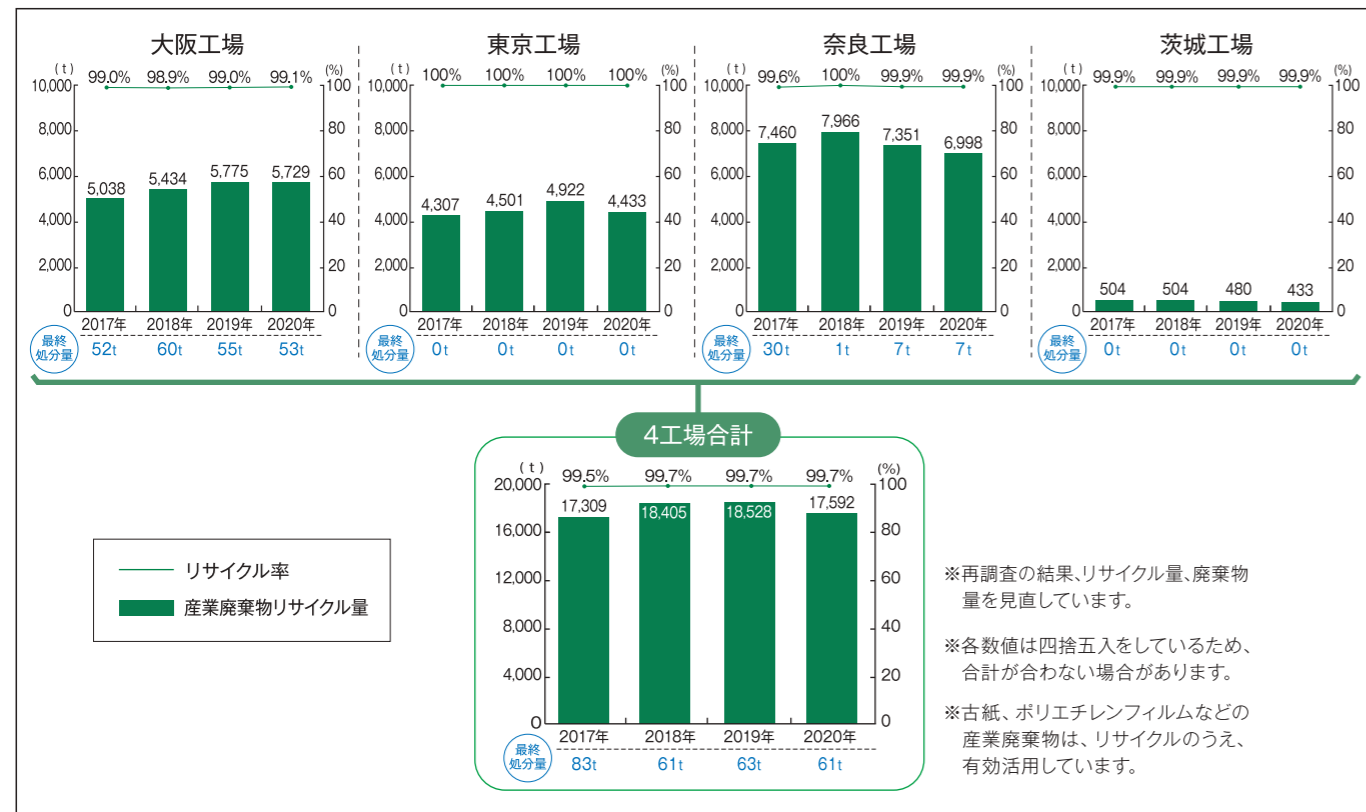
電気使用量



※自社で設置している太陽光発電による発電量は含みません。

産業廃棄物のリサイクル状況

4工場合計の2020年度リサイクル率は99.7%です



化学物質の適正管理

製造工程で使用する化学物質について、PRTR法にもとづき適正に管理するとともに、生産量に対して排出量の削減を進めています。2020年度もフタル酸エステル類を含む接着材の使用を減らしたため、化学物質の取扱量は減少しています。

PRTR法に定める第一種指定化学物質の取扱量(4工場合計)

対象化学物質	含まれる材料	2017年	2018年	2019年	2020年
トルエン	接着剤	0.9	1.0	0.8	0.8
キシレン	接着剤	0.0	0.0	0.0	0.0
フタル酸エステル類	接着剤	1.6	1.2	0.5	0.2
ハウ酸及びその化合物	接着剤	1.6	1.7	1.7	1.6
モノクロロベンゼン	接着剤	0.6	0.8	0.8	0.8
ジクロロメタン	オフセット印刷洗浄剤	0.0	0.0	0.0	0.0
1,2-ジクロロプロパン	オフセット印刷洗浄剤	0.0	0.0	0.0	0.0
合計		4.7	4.7	3.8	3.4

環境目標

本社・営業グループ、工場ごとに、環境目標を設定しています。2020年度の目標と結果は以下の通りです。

		2020年度 環境目標	実績	結果
本社並びに 営業グループ	フォレスト商品(※)の拡販	フォレスト商品の売上高を2019年に対して同等以上にする。	-17.5%	×
	FSC®商品の拡販	FSC®商品の売上高を2019年に対して40%向上させる。	+72.6%	○
	森林保全活動	森林保護運動を毎年8回計画又は実施する。	8回	○
大阪工場	環境に配慮した素材・加工技術の開発	毎年3件開発する。	0件	×
	省エネ	CO ₂ 排出原単位の削減 対前年で、1%削減する。	+16.9%	×
東京工場	省エネ	CO ₂ 排出原単位の削減 2012年に対し30%削減する。	-22.9%	×
奈良工場	省エネ	CO ₂ 排出量(原単位)の削減 対前年0.5%削減する。	+0.2%	×

※バガス、フォレストライト、カスタードカラー、シュガーブラウン、バイオロープ等を使用した商品は、ザ・バック フォレスト環境基金対象のフォレスト商品です。

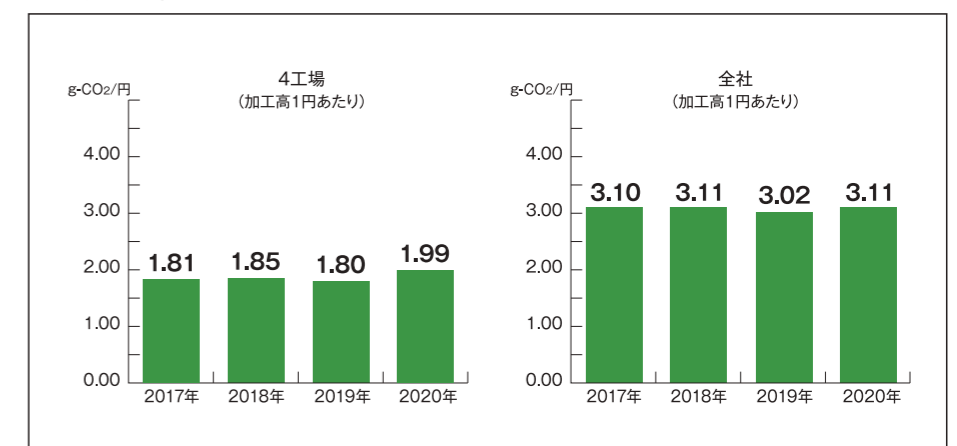
CO₂削減活動

2010年よりCO₂削減活動キャンペーンを全社で実施し、CO₂排出原単位の削減に取り組んでいます。

CO₂排出原単位とは

一定の企業活動を行う際に排出されるCO₂の量を指します。当社では、国内工場での加工高と、国内工場・本社・営業全体でのCO₂排出量から算出しています。売上や生産量の変化に影響されないため、一般的に省エネルギーの指標として使われています。

CO₂排出原単位



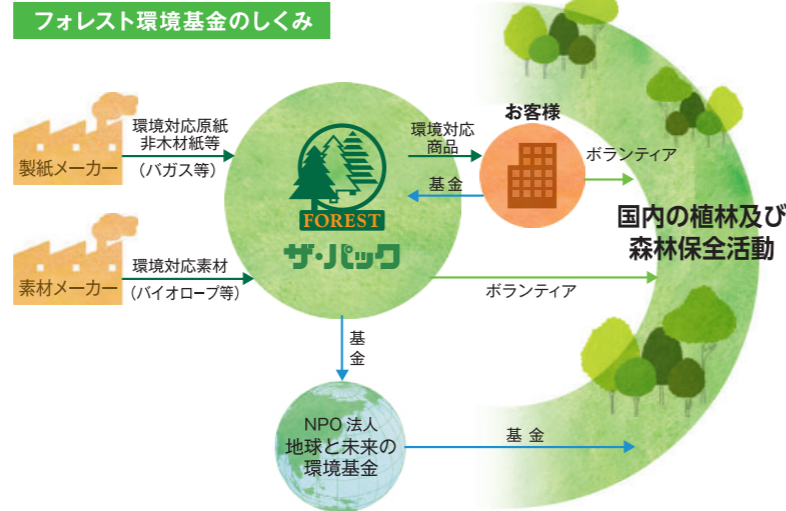
02 ザ・パックフォレスト環境基金活動

Forest conservation activities



1993年から環境対応商品を開発し、販売額の一部を森林保全活動費用として拠出しています。2000年には独自の「フォレスト環境基金」を設立し、植林地にて植樹や間伐を行うボランティア活動を開始しました。基金の一部を苗木等の購入費用に充て、委託先であるNPO法人地球と未来の環境基金(EFF)*と協働で、年に数回、活動を行っています。

2020年は新型コロナウイルス感染防止対策のために全ての活動を自粛いたしました。しかるべきタイミングにて安全に配慮しながら活動を再開する予定です。



*NPO法人地球と未来の環境基金(EFF) ▶ <http://www.eco-future.net/> 活動の詳細は当社HPを ▶ ご確認ください。

これまでの活動の成果 (2020年末時点) ■参加者:6,907人 ■植樹:20,465本 ■CO2吸収量:132.71トン/年 ※植樹した木による1年あたりのCO2吸収量。

1号植林地 岩手県西和賀町(2001年6月植林開始)	2号植林地 奈良県吉野町(2002年3月植林開始)	3号植林地 沖縄県恩納村(2003年10月植林開始)	4号植林地 広島県竹原市(2004年11月植林開始)
5号植林地 千葉県君津市(2009年2月植林開始)	6号植林地 大阪府高槻市(2009年11月植林開始)	7号植林地 埼玉県日高市(2012年3月植林開始)	8号植林地 大阪府四條畷市(2016年6月植林開始)

03 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

Measures to prevent the spread of COVID-19



全従業員の安全確保と社会的責任を果たすため、事業を継続しながら感染拡大を防ぐルール作り、行動指針の提示を行っています。具体的な取り組みは下記の通りです。

- 社内体制**
 - コーポレート本部長をトップに据えた『新型コロナウイルス感染症対策室』を設置
 - 国のガイドラインに従って、毎月1回以上、全従業員へ対応方針を共有
- 社内での取り組み**
 - 新しい働き方**
 - 在宅勤務制度、時差出勤等の仕組みを整備
 - テレワーク、オンライン会議システムの導入と推進
 - 内勤者にも社用携帯番号を付与
 - テレワーク時の内線電話転送システムを導入
 - 安全衛生対策**
 - 社内および通勤時マスク着用を徹底
 - 社内各所に手指消毒液を設置、マスクを配布、各部屋の換気を実施
 - 食堂および各自デスクに飛沫防止パーテーションを設置
 - 行動指針**
 - 喫煙時、昼食時の感染防止対策を啓蒙
 - 社員同士の会食制限、国内出張の制限、海外出張の禁止
- 社外への取り組み**
 - 決算説明会のオンライン化を導入
 - 株主総会への書面での議決権行使を推奨、事前質問をオンライン上で受け付け、HPで公開
 - 採用活動の一部をオンライン化(会社説明会、面接、内定者研修、懇親会)
 - 取引先の立ち入りは必要最小限として、入室の際に記録を行う

陽性者が発生した場合の対応

- 会社独自に濃厚接触者を定義し、会社費用負担によりPCR検査の自主的な受診
- 個人情報保護に配慮し、必要な範囲で感染発生を告知

04 新しい生活様式下において注目を集める製品

Products becoming popular in the New Normal



コロナ禍による生活様式の変化が後押しとなって、EC用・食品テイクアウト用パッケージの需要がますます高まっています。現在、注目を集めているパッケージを紹介します。今後も拡大し続ける各市場への提案として、販売推進していきます。

コンパクト輸送包装材「CC-PACK」

緩衝性のある柔らかな紙素材を使用しており、様々な形状にフレキシブルに対応できる環境対応の輸送包装材「CC-PACK」を開発しました。段ボールと同じ波形状を薄紙で形成する事により、気泡緩衝材付き封筒以上の緩衝性を発揮します。



<CC-PACK特長>

- 総合パッケージメーカーのノウハウを活かした独自仕様
- 梱包するアイテムの厚みにあわせて、マチ幅を簡単に変える事が可能
- 厚みがあり衝撃を吸収する材質構成ため、緩衝材の同梱が不要
- 単一素材のため、リサイクルしやすい
- FSC®認証紙(FSC® C020517)を使用する事も可能



強度・かん合性UP「強化型 紙製テーパートレイ」

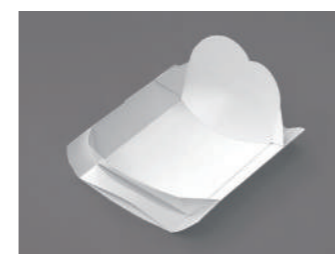
テーパートレイとは底面から上部にかけて広がっているトレイです。紙に加工を施す事で、油を含んだ食品も入れる事ができるため、食品一次容器として以前から需要がありました。成形後、積み重ねた状態で納品するため、使用時に組み立てる手間を省く事ができます。一例として、「強化型 紙製テーパートレイ」を紹介します。

<強化型 紙製テーパートレイ特長>

- 長辺の上部を2重に折り返す事で、従来品よりも強度が増し、蓋のかみ合わせも改良
- 内側にラミネート加工を施し、角部分を折り込んで貼る事で、水分が多い食品でも水漏れしない
- 国内で別注製造が可能のため、カットラインやデザインを変え、オリジナル性を高める事も可能

設計力と独創性を発揮「ホットスナック用紙製トレイ」

ホットスナック用紙製トレイは多種多様な形状の取り扱いがあります。今回は、その中からアイデア商品を2つ紹介します。



ぐいっと広げたら即トレイ

ミシン目に沿ってトレイを破き、POP面で商品を挟み、片手で持てる

四角錐ケース

スタイリッシュな形状で、開口部が斜め上を向くため、ディスプレイ映える

<各種特長>

- 使用時の組み立てが容易
- 省スペースで保管が可能
- 立体納品される容器と比べて、配送コスト及び配送時のCO2排出量を削減